

親鸞と鎌倉仏教

主催 / 京都商工会議所

親鸞は近代日本でもっともポピュラーな仏教者ですが、近代的な解釈にはかなり近代人の思い入れがあり、必ずしも実態を反映していません。中世という時代の中で、親鸞はどのように生き、考えたのでしょうか。最近の鎌倉仏教研究は急速にかつての近代的な解釈を覆しつつあります。そのような成果を踏まえながら、親鸞の生涯と思想を考え直してみようと思います。お誘いあわせの上、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

1. 鎌倉仏教を見直す
2. 親鸞の生き方
3. 親鸞の思想

※ 講演内容は変更の可能性があります。

◆ 開催日程 ◆

平成22年4月24日(土) 13:00~15:00

◆ 受講料 ◆

2,000円 (レジュメ・参考文献を含む)

◆ 定員 ◆

300名 (定員になり次第締め切ります)

◆ 講師 ◆

末木 文美士 氏 国際日本文化研究センター 教授

1949年生まれ。東京大学文学部卒業。同大学院人文科学研究科博士課程修了。(財)東方研究会研究員、東京大学助教授、同教授を経て、現在、国際日本文化研究センター教授。

専門は仏教学。著書に『日本仏教史』(新潮文庫)、『鎌倉仏教形成論』(法蔵館)、『鎌倉仏教展開論』(トランスビュー)、『日本宗教史』(岩波新書)などがある。

◆ 会場 ◆

京都商工会議所 (地下鉄烏丸線 丸太町駅南側6番出口すぐ)

★ 京都検定講習会特別プログラムとは…

「テキストで学んだ内容をもっと深めたい」「特定のテーマで専門的な話を聞きたい」という声にお応えして開催するプログラムです。毎回テーマを設定し、その分野の第一人者の方からご講演いただきます。より深く、楽しく京都のことを学びたい方に最適のプログラムです！

千利休 - その生涯と芸術 -

主催 / 京都商工会議所

茶の湯の大成者とされる千利休(1522-91)ですが、利休を熟知していた弟子の山上宗二は、「利休は3、40代は師匠である武野紹鷗の掟を守るだけであり、その写しであった。ところが61の歳になって変わった」と述べています(『山上宗二記』)。利休の61歳とは本能寺の変後、秀吉の茶頭になった年のことで、秀吉との関係が賜死に至る利休の生き方はもとより、独自の茶を生み出す上で決定的な意味を持っていたことが分かります。秀吉との関係を中心に利休の生涯と目指した茶の湯の特質を考えてみたいと思います。お誘いあわせの上、ご参加いただきますようご案内申し上げます。

1. 利休を利休たらしめたものはなにか

- 1) 堺の町人であったこと
- 2) 秀吉の茶頭になったこと

2. 利休の目指した茶の湯とはなにか

- 1) 茶室をめぐる
- 2) 茶碗をめぐる

※ 講演内容は変更の可能性があります。

◆ 開催日程 ◆

平成22年5月29日(土) 13:00~15:00

◆ 受講料 ◆

2,000円 (レジュメ・参考文献を含む)

◆ 定員 ◆

300名 (定員になり次第締め切ります)

◆ 講師 ◆

村井 康彦 氏 京都市美術館 館長

1930年生まれ。京都大学文学部大学院博士課程修了。京都女子大学、国際日本文化研究センター、滋賀県立大学、京都造形芸術大学等を経て、現在京都市美術館長。国際日本文化研究センターおよび滋賀県立大学の名誉教授。(財)京都市芸術文化協会理事長。

日本古代史を専攻。とりわけ平安京研究の権威。また茶の湯などの文化史研究にも功績をあげる。『古代国家解体過程の研究』、『平安貴族の世界』、『茶の文化史』、『千利休』など著書多数。1992年に茶道文化学術賞、95年に第39回京都新聞文化賞、07年に茶道文化賞、08年には京都市文化功労者をそれぞれ受賞している。

◆ 会場 ◆

京都商工会議所 (地下鉄烏丸線 丸太町駅南側6番出口すぐ)

★ 京都検定講習会特別プログラムとは…

「テキストで学んだ内容をもっと深めたい」「特定のテーマで専門的な話を聞きたい」という声にお応えて開催するプログラムです。毎回テーマを設定し、その分野の第一人者の方からご講演いただきます。より深く、楽しく京都のことを学びたい方に最適のプログラムです！

菅原道真と天神信仰

— 北野天満宮とその周辺 —

主催 / 京都商工会議所

京都では、北野天満宮やその祭神菅原道真公、また毎月 25 日の縁日をも、親しみをこめて「天神さん」と呼び、全国的にも「学問の神」として有名です。この講義では、道真公とはどんな人だったのか、また何ゆえに北野天満宮に祀られるようになったのかをたどり、さらに、その天神信仰が平安時代中期の一条天皇朝—藤原道長や紫式部の時代—を画期として大きく変貌してゆき、やがて平安時代末期に北野天神縁起が成立するプロセスを、最新の研究成果をもとにお話いたします。

1. 菅原道真の生涯
2. 天神信仰の成立 - 北野天満宮の創建 -
3. 天神信仰の変貌 - 北野天神縁起の成立 -

※ 講演内容は変更の可能性あります。

◆ 開催日程 ◆

平成 22 年 6 月 26 日 (土) 13:00 ~ 15:00

◆ 受講料 ◆

2,000 円 (レジュメ・参考文献を含む)

◆ 定員 ◆

300 名 (定員になり次第締め切ります)

◆ 講師 ◆

竹居 明男 氏 同志社大学 教授

1950 年生まれ。同志社大学大学院文学研究科博士後期課程中退。同志社大学文学部教授。専門は日本古代・中世文化史。

主として文献史料や芸術作品を通して、平安時代をベースに、前後の時代も広く勉強しているが、目下のところは天神信仰の諸問題に集中している。主な著書として『日本古代仏教の文化史』(吉川弘文館)、『天神信仰編年史料集成』(国書刊行会)、『北野天神縁起を読む』(編著、吉川弘文館)などがある。「古書(古本)」大好き人間で、研究室と自宅は「本の迷宮」と化している。

◆ 会場 ◆

京都商工会議所 (地下鉄烏丸線 丸太町駅南側 6 番出口すぐ)

★ 京都検定講習会特別プログラムとは…

「テキストで学んだ内容をもっと深めたい」「特定のテーマで専門的な話を聞きたい」という声にお応えして開催するプログラムです。毎回テーマを設定し、その分野の第一人者の方から講演いただきます。より深く、楽しく京都のことを学びたい方に最適のプログラムです！

慶派仏師とその作品

— 運慶とその系統 —

主催 / 京都商工会議所

運慶や快慶、湛慶に代表される仏師の一派「慶派」は、日本の彫刻史上、多くの優れた作品を生み出しました。その作風は、奈良時代の作品に学びながら新しい宋風の要素も取り入れ、斬新かつ写実的な作風で知られています。今回は慶派仏師と京都に残るその作品を取り上げ、特色や見どころなどを解説します。お誘いあわせの上、ご参加いただきますようご案内申し上げます。

1. 運慶と六波羅蜜寺 地蔵菩薩坐像
2. 快慶と阿弥陀如来像
3. 湛慶と三十三間堂 千手観音坐像

※ 講演内容は変更の可能性があります。

◆ 開催日程 ◆

平成22年7月24日(土) 13:00~15:00

◆ 受講料 ◆

2,000円 (レジュメ・参考文献を含む)

◆ 定員 ◆

300名 (定員になり次第締め切ります)

◆ 講師 ◆

伊東 史朗 氏 和歌山県立博物館 館長・京都国立博物館 名誉館員

1945年生まれ。名古屋大学文学部卒業(美学美術史)。京都国立博物館技官、文化庁美術学芸課主任文化財調査官等を経て、現在、和歌山県立博物館館長、京都国立博物館名誉館員。主な著書に『院政期の仏像』(岩波書店)、『調査報告 広隆寺上宮王院聖徳太子像』(京都大学学術出版会)、『平安時代彫刻史の研究』(名古屋大学出版会)、『平安時代後期の彫刻』、(至文堂)などがある。

◆ 会場 ◆

京都商工会議所 (地下鉄烏丸線 丸太町駅南側6番出口すぐ)

★ 京都検定講習会特別プログラムとは…

「テキストで学んだ内容をもっと深めたい」「特定のテーマで専門的な話を聞きたい」という声にお応えして開催するプログラムです。毎回テーマを設定し、その分野の第一人者の方から講演いただきます。より深く、楽しく京都のことを学びたい方に最適のプログラムです!

戦国武家茶人 古田織部と織部焼

— 「へうけモノ」の茶碗を使った茶の湯の名人 —

古田織部は「利休七哲(利休の7人の高弟)」の一人に数えられる武将です。織田信長の上洛に従って京都での生活に入りますが、信長が本能寺で倒れた後、そのまま豊臣秀吉に仕えます。

秀吉のもとでは千利休に出合って交流を重ねています。織部が利休亡きあとの「茶の湯の名人」と呼ばれるのは江戸時代に入ってからです。徳川家康、秀忠の茶の湯師範として活躍する一方で、「へうけモノ」と評された焼き物を創案して一世を風靡します。このような織部の生涯と茶を見ることにしましょう。



「へうけもの」古田織部「モーニング」連載

©山田芳裕 / 講談社

1. 織部と利休

なみだ

- (1) 利休との別れ 「泪」の茶杓
- (2) 「瀬戸茶碗 ヒツミ候也 へうけモノ也」

2. 将軍家 茶道師範

- (1) 織部焼
- (2) 不可解な切腹

※講演内容は変更する場合があります

■日時 平成22年 8月28日(土)
13:30~15:30

※今回は開始が13:30となっております。

■会場 京都商工会議所

地下鉄烏丸線「丸太町」駅南側6番出口すぐ
たにはた あきお

■講師 谷端 昭夫氏

湯木美術館学芸部参与、裏千家学園講師

1948年京都生れ 大谷大学大学院博士課程修了 文学博士。
主な著書に『近世茶道史』(淡交社)、『茶の湯の文化史』(吉川弘文館)、
『公家茶道の研究』(思文閣出版)、『茶話指月集を読む』(淡交社)、
『よくわかる茶道の歴史』(淡交社)など。現在、日本史とお茶の歴史が
連動して読めるテキスト「日本史のなかの茶道」を執筆中。

■受講料 2,000円(資料代含む・織部ポストカード付)

■定員 300名(定員になり次第締め切ります)

■申込方法 裏面に申込用紙があります。

<参考>

●利休七哲

蒲生氏郷、高山右近、細川三斎、芝山監物、瀬田掃部、牧村兵部、古田織部(「よくわかる茶道の歴史」淡交社)

●へうけモノ(へうげモノ、へうげもの)

「剽(ひょう)げもの」のことで、茶の湯の史料に見られる一風変わった風情の茶人、茶道具をさす。

「よくわかる茶道の歴史」(淡交社)によると、1599年(慶長4年)2月28日、古田織部は特異な茶碗を使用した茶会を行う。

場所は、京都伏見の三疊台目「凝碧亭」。(中略)この薄茶茶碗は、「ヒツミ(歪み)」「へうけモノ(剽げ者)」という表現から見て、それまでの茶碗に比べてかなりデフォルメされたものであったようだ。



マンガで見る日本まん真ん中おもしろ人物史シリーズ
「古田織部 乱世を駆け抜けた生涯」
(発行:岐阜県 シリーズ監修:石/森車太郎
構成:里中満智子 作画:村野守美)

伊藤仁斎と古義堂

— 人間孔子の発見から儒学の革新へ —

主催 / 京都商工会議所

伊藤仁斎いとうじんさいは元禄時代の京都で活躍した日本を代表する思想家です。江戸時代、京都には多くの私塾が栄え、儒学が社会一般に広まりました。なかでも仁斎が開いた古義堂こぎどうは、明治に至るまで240年以上にわたり、多くの門人によって継承されてきました。「人と人の間に道がある」という人倫の思想は、近代では和辻哲郎わつじてつろうなどに取り上げられ、ヒューマニスト仁斎の像が定着していますが、その思想がどのような過程を経て作り出されていったのかはあまり知られていません。今回は、日本の思想界に大きな影響を与えた伊藤仁斎にスポットをあて、何が人の心をとらえたかについて、考察いたします。また、学派の系図をたどり、当時の思想界の流れについても、わかりやすく解説します。

1. 仁斎の伝記からみる思想の軌跡 — 朱子学との対決へ —
2. 新たな道の模索 — 「最上至極宇宙最大の書」としての論語 —
3. 日用人倫の道 — 「人の外に道なし」 —
4. 古義堂の歴史的役割

※ 講演内容は変更する場合があります

■ 日 時：平成22年9月25日（土） 13:00～15:00

■ 会 場：京都商工会議所 地下鉄烏丸線「丸太町」駅南側6番出口すぐ

■ 講 師：みやがわやすこ宮川康子氏 京都産業大学 日本文化研究所所長、益川塾指導教授

1953年、東京生まれ。大阪大学大学院博士課程修了、文学博士。専門は日本思想史。主な著書に『富永仲基と懐徳堂』（ペリカン社）『自由学問都市大阪』（講談社メチエ）など。また翻訳『徳川ビレッジ』ヘルマン・オームス著（ペリカン社）書評論文『子安宣邦『伊藤仁斎の思想』を読む』などがある。江戸時代の町人思想を専門とし、その始まりに位置する伊藤仁斎に注目、古義堂の歴史的役割について執筆中。

■ 受講料：2,000円（参考資料代含む）

■ 定 員：300名 （定員になり次第締め切ります）

★ 京都検定講習会特別プログラムとは…

「テキストで学んだ内容をもっと深めたい」「特定のテーマで専門的な話を聞きたい」という声にお応えして開催するプログラムです。毎回テーマを設定し、その分野の第一人者の方からご講演いただきます。より深く、楽しく京都のことを学びたい方に最適なプログラムです！

京都文化と妖怪

— 聖地と異界をめぐる京の人びと —

京都は千二百年もの歴史をもつ古い町です。そして京の町には多くの「聖地・異界」と呼ばれる空間が存在します。それはあの世とこの世の境があいまいになる黄昏時や丑三つ時—いわゆる「逢魔が時」—に、神々や妖怪の類と邂逅する不思議の場所であり、古の京都びとがもっていた、場所をめぐる感性の記憶にほかなりません。京の聖地と異界、神や妖怪を考えることで、現代人が失いかけている感性を取り戻す試みとしたいと思います。

<講演キーワード>

1. 京都人のコスモロジーが作り出した聖地・異界
2. 京都人による京都人のための聖地
3. 雅の都に潜む闇 洛中の異界と妖怪

※講演内容は変更する場合があります。

- 日時：平成22年10月30日（土）13:00～15:00
- 会場：京都商工会議所 地下鉄烏丸線「丸太町」駅南側6番出口すぐ
- 講師：小松 和彦（こまつかずひこ）氏

国際日本文化研究センター教授

【プロフィール】1947年東京都生まれ。

東京都立大学大学院社会科学部研究科博士課程修了。
信州大学助教授、大阪大学文学部助教授及び教授を経て、現職。
主な著書に、『神々の精神史』（講談社学術文庫）、『憑霊信仰論』（講談社学術文庫）、『異人論』（ちくま学芸文庫）、『悪霊論』（ちくま学芸文庫）、『妖怪学新考』（洋泉社MC）、『異界と日本人』（角川書店）、『妖怪文化入門』（せりか書房）、『百鬼夜行絵巻の謎』（集英社ビジュアル新書）、『怪異の民俗学』（全八巻 河出書房新社、編著）、『日本妖怪学大全』（小学館、編著）、『妖怪文化研究の最前線』（せりか書房、編著）など多数。



- 受講料：2,000円（レジュメ代含む・参考資料付）
- 定員：300名（定員になり次第締め切ります）
- 申込方法：裏面の申込書にご記入の上、お申し込み下さい。

★ 京都検定講習会特別プログラムとは…

「テキストで学んだ内容をもっと深めたい」「特定のテーマで専門的な話を聞きたい」という声にお応えして開催するプログラムです。毎回テーマを設定し、その分野の第一人者の方からご講演いただきます。より深く、楽しく京都のことを学びたい方に最適のプログラムです！

光悦、素庵、そして、宗達

— 交流とその芸術 —

日本の美術は古来、文学と密接な結びつきがある。絵巻物、歌絵、詩画軸など。本阿弥光悦、角倉素庵、俵屋宗達が生み出したのは、新しい文学と美術の出会いであり、それは、絢爛豪華な桃山という時代のもうひとつのすがたであった。そこには、高度な文学性と高い趣味性、そして、優れた意匠性があった。この優れた芸術が前時代までと大きく違う点は、それを進めた人のすがたが見えるという点だ。講座では、彼らの個性とそのネットワークから生まれた芸術の様相を具体的な作品に即して見てゆきたい。

<講演キーワード>

- ◇ 文学と美術のあらたな出会い
- ◇ 寛永文化のネットワーク —人のすがたが見える芸術の場—
- ◇ 桃山・江戸初期のあらたな意匠（デザイン）

※講演内容は変更する場合があります。

■日時：平成22年11月27日（土）13:00～15:00

■会場：京都商工会議所 地下鉄烏丸線「丸太町」駅南側6番出口すぐ

■講師：京都工芸繊維大学大学院 教授 **並木 誠士**（なみき・せいし）氏

【プロフィール】1955年東京生まれ。京都大学大学院文学研究科修了。

徳川美術館学芸員、京都大学助手、京都造形芸術大学助教授を経て、現在、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授（日本美術史）・京都工芸繊維大学 美術工芸資料館館長・同大学 文化遺産教育研究センター長を務める。

<編著書>『絵画の変—日本美術の絢爛たる開花』（中央公論美術新社、中公新書）2009年、『江戸の遊戯』（青幻舎）2007年、『美術館の可能性』（共著、学芸出版社）2007年、『日本の伝統文様』（編著、東京美術）2006年、『中世日本の物語と絵画』（共著、放送大学教育振興会）2004年ほか



■受講料：2,000円（レジュメ代含む・参考資料付）

■定員：300名（定員になり次第締め切ります）

■申込方法：裏面の申込書にご記入の上、お申し込み下さい。

★ 京都検定講習会特別プログラムとは…

「テキストで学んだ内容をもっと深めたい」「特定のテーマで専門的な話を聞きたい」という声にお応えして開催するプログラムです。毎回テーマを設定し、その分野の第一人者の方からご講演いただきます。より深く、楽しく京都のことを学びたい方に最適のプログラムです！